大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

あれかこれかではなく、あれもこれも：紙の本と電子書籍

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-04-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 清原, 文代 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/15876

あれかこれかではなく、あれもこれも
―紙の本と電子書籍―

清原　文代

最近本を買う時はまず電子書籍が出ていないかを探す。電子書籍が出ていればそちらを買うことが多い。理由は二つある。一つは物理的に本を置く場所がないこと。もう一つは老眼だ。電子書籍であれば、自分が読みやすい字の大きさに調節できる。電車の中ではスマートフォンのKindleアプリで、寝る前は液晶画面から光を発するスマートフォンではなく、電子ペーパー版のKindleで読む。電子ペーパーは液晶より画面書き換えが遅いが、目に優しい。

昨年出た小学館『中日辞典第三版』、もちろん紙の辞書も買ったが、普段使うのは物書堂のiOSアプリ『小学館 中日・日中辞典（第3版）』の方が多い。思いついた時にiPhoneでさっと引く。じっくり読みたい時はiPadの大きな画面で表示する。もちろん字は読みやすい大きさに設定して読む。わたしは授業ではiPadをプロジェクタに繋ぎ、ノートアプリGoodNotes 4を使って板書をしている。学生の様子を見ながら、前に書いた板書のページを出してもう一度解説したりする。『小学館 中日・日中辞典（第3版）』のアプリに切り替えて、学生さんに辞書の画面を見せながら解説し、見出し語の発音を再生して聞かせる。書き間違いやすい簡体字は、中国の子供向けの漢字学習アプリや《新华字典－商务印书馆官方正版》アプリの筆画表示機能を使って書き順を動画で見せたりもする。

こんなことを書いていると、デジタル礼賛に聞こえるかもしれない。そうではない。紙の本の持つ実物の良さというのは電子書籍には代替できないものがある。本の厚みを指で感じながら、ああ、この辺まで読んだと体感できること、美しい装丁、手触りの良い紙、物としての書籍の魅力は電子書籍にはない。電子書籍の本質はデータである。データを再生するには機器や再生用ソフトウェアが不可欠で、それらの種類には栄枯盛衰がある。データはあるが、再生できないという状態はデジタルデータにはつきものなのだ。保存を示すアイコンとして、フロッピーディスクのアイコンが使

われていることがあるが、今時の学生さんにとっては由来のわからない謎のアイコンではないかと思う。フロッピーディスクに保存されたデータはいつまで読み出せるだろう？一昔前、双方向性のあるWeb教材の多くはFlashで作られていたが、開発元のAdobe社は二〇二〇年でFlashのサポートを停止すると宣言している。Flashで作られたWeb教材はいずれ再生できなくなるだろう。デジタルデータは、機器やOS、再生ソフトウェアの栄枯盛衰に合わせていく必要がある。言わば「転生」していかないと次ぎの世代に残っていくことができない。コストをかけてフォーマットを変換しても残したいものだけが残っていくということは、売れ筋だけが残るという淘汰の圧力が紙の本以上にかかることになるのではないか。その点、紙の本はたとえ所謂「天下の孤本」になったとしても、とにかく少なくとも図書館に一冊残れば、次ぎの世代に伝えることが可能だ。保存という点では紙の本の方がずっと寿命が長いだろう。国立国会図書館は「オンライン資料収集制度（eデポ）」でデジタル資料の収集を始めているが、現時点では無償且つDRM（複製防止機能）がかかっていないものしか対象としていない。わたしは中国語初級教材をデジタルデータで作ってインターネット上で公開しているが、ファイルフォーマットはPDFやEPUBを使ったりしている。これはなるべく作った教材を長生きさせるためだ。PDFはISO（国際標準化機構）の規格になっていて公文書などでも使われており、言わば「寄らば大樹の陰」作戦である。EPUBは電子書籍の実質的世界標準規格で、これも息が長いと思われる。EPUBはDRMがかかっていなければ、中身のテキストを取り出すことも容易だ。

わたしがワークショップなどでよく言う台詞がある。「紙は教材の世界での唯一の〝神〟ではなくなりました。これからは〝多神教〟の世界になります。」紙の教材が主の方にデジタルの教材や教具の利便性にも目を向けて欲しいからこう言うのであるが、紙ほど簡便で堅牢な端末はなく、紙は長い生命力を持っていることも肝に銘ずるべきだと思っている。〝紙〟は死なない。たくさんいる〝神〟の一人になるだけだ。「あれかこれか」ではなく、「あれもこれも」が肝要だと考えている。

（大阪府立大学教授）